

横山禎徳著「循環思考」東洋経済新報社 2012年4月12日刊を読む

「良循環」をいかにしてつくり出すのか 100回以上考える

1. 現在、世の中に存在しない「良循環」をつくり出すためには創造性の発揮が不可欠である。しかし、かつてエジソンがいったように、「創造とは 1%のインスピレーション(ひらめき)と 99%のパースピレーション(汗をかくこと)」であることは確かだ。要するに、どうやって「汗をかく」といいのかという問題である。それはどれだけあれやこれやと飽きもせず繰り返し考えることができるかということに尽きる。繰り返し考えると本当に「良循環」は見つかるのかという疑問に対して、答えは、イエス、必ず見つかる。筆者は答える。なぜなら、見つかるまで繰り返し考えるからだ。「成功する秘訣は何か」という問いに対して答えは「成功するまでやる」というのと同じことである。

2. それでは身もふたもないと思うかもしれない。しかし、だまされたと思ってやってみることだ。人の 10 倍は繰り返し考えるという習慣、そしてそれに飽きないという心のもち方を身につけるべきだ。普通の人にはせいぜい 10 回ぐらいしか繰り返し考えていないから、10 倍ということは大体 100 回ぐらい繰り返し考えるということになる。当然、何日もかかる。そうすると、頭の中がそのことでいっぱいになり、感覚が鋭敏になってくる。そうすると、ちょっと目にしたこと、ちょっと聞いたことがきっかけとなって突然、「ああそうか、ここから考えればいいのだ」と突然わかってくる。これは自分で直接体験してみる以外に手はなく、いくら説明してみても始まらない。繰り返すが「身体知」なのだ。

P156 ~ 157

[コメント]

横山先生の「100 回以上考える」という考えは全く同感。頭のシンが痛くなるまで考えるというのはこのようなことだ。ここまで真剣に考えたら、あとは覚悟をもって執念深くやり抜くだけだ。

- 2012年4月25日 林 明夫記 -